

2021年9月29日

一般社団法人 繊維学会 会員各位
一般社団法人 日本繊維機械学会 会員各位
一般社団法人 日本繊維製品消費科学会 会員各位

繊維学会，日本繊維機械学会，日本繊維製品消費科学会の 一法人化に向けた検討の進展について

日頃より，繊維学会，日本繊維機械学会，日本繊維製品消費科学会（繊維系三学会）の活動へのご理解とご協力に対し，厚く御礼を申し上げます。

2021年5月21日に，三学会のwebサイトに「繊維学会，日本繊維機械学会，日本繊維製品消費科学会の一法人化を視野に入れた議論開始について」の文書を掲載してお知らせするとともに，総会・学会誌でもお伝えしましたように，繊維系三学会では，会長・副会長・事務局長による会議で，一法人化に向けた議論を進めてきた結果，三学会（三法人）が合併，一法人化して新たな学会を創生することには大きな価値があるとの結論に至りました。

人類の生存に不可欠な衣食住，地球環境を支える繊維及び関連した学問領域の研究者・技術者には，時代や環境の変化に対応していくために新たな価値，イノベーションを持続的に創出していく責務があります。我が国の繊維業界を学理の面からリードし，国際的にも高いポジションを占める学術団体を構築していくことが，世紀を跨ぐマクロな視点に立った本会議の議論の総意であり，その方法論として繊維系三学会が培ってきた英知を結集し未来に向かっていくことが，最良の選択であると考えます。従来 の枠組みを超え多様性を獲得した新学会は，世界に向けた価値提案，社会的問題解決，及び他分野と連携した新学術分野の創成に向けて会員が国際的に活動する場として機能し，その存在価値を明確に発信することで人々を惹きつけ，次の時代を担う人材を持続的に育成することが可能と信じます。

各学会の会員の皆様にとっても魅力的な，新時代に相応しい学会になるべく，合併後の新学会について具体的な検討に入るべきとの考えから，2021年6月21日に開催された，第6回繊維系三学会統合検討会議（元三学会ワーキング，メンバー：三学会の会長・副会長・事務局長）において，個別の事項について検討する以下のワーキンググループ（WG）を設置しました。

（1）学会誌検討WG （2）論文誌検討WG （3）年次大会検討WG （4）催事・研究(委員)会検討WG （5）国際化WG （6）事務局検討WG

現在，各学会から選出された6～8名のメンバーにより，それぞれのWGで様々な検討がなされているところです。各学会には，それぞれの特徴があり，一法人化に向けての課題は難題ばかりですが，それぞれの学会の事情や立場に縛られるのではなく，時代が激しく変化している中，今後，「繊維」を冠する学会がどうあるべきか，新しい学会はどのような姿であるべきか，といった観点からの議論がなされています。

まだ統合後の新学会の具体的な姿をお示しできる段階ではありませんが，会員各位におかれましても，繊維系三学会の一法人化の議論を進めることに関して，ご理解を賜りたくお願い申し上げます。また，ご意見等ございましたら，理事・事務局を通じて，お寄せいただければ幸いです。

一般社団法人	繊維学会	会長	荻野 賢司
一般社団法人	日本繊維機械学会	会長	井上 真理
一般社団法人	日本繊維製品消費科学会	会長	牛田 智